

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-118	小学校	生活	生活	第1学年, 2学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
26信教	生活109 生活110	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ		

1. 編修の基本方針

学習指導要領生活科の目標及び内容に基づき、多数の小学校の長年にわたる研究や実践の裏付けをもとに、学習内容を精選・集約して構成した。

特に、教室から校内や校外に出たの活動を大切に、子どもが具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会や自然とのかかわり及び自分自身について振り返り、気づきの質を深めながら、よき生活者として求められる知識、技能や学ぶ意欲、態度などを培い、自立への基礎を着実に養えるよう、学習内容の展開と示し方に配慮した。

(1) 「人間愛」を育むことを基本に編修

- ・全編を貫く指導理念を「人間愛」の育成においた。
- ・家族や仲間、地域の人々との響き合い、支え合いの場面を大事に考えて教科書構成に努めた。
- ・身近な幼児や高齢者、障がい者などと触れ合い、自分の在り方に気付くことができるように努めた。

(2) 教材はできるだけ、子どもの身近で、地域の豊かな自然環境や日常的な事象を取り上げ、直接体験を通して培われる、感じる心や感じる体を大切に編修

(3) 子どもは思いをかけ、思いをこめるほどに、思いがけなさ（感動）に出会い、その感動によって相手への思い（かかわり）をいっそう深め、広げ、時に改める自分になっていく特性を大事に、専心とその連続、そこから生まれる感動を基本にすえた単元展開

2. 対照表

上巻

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 うれしいな いちねんせい	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保園で育ってきた自分自身に自信をもち、新たな学校という環境に意欲的にかかわっていこうという姿勢を示すとともに規則正しい一日の生活の流れやクラスメート・先生・地域の人々とのかかわりを表した。(第1号) ・学校生活や行き帰りの道での安全に留意するため、標識や表示・安全を守ってくれる人や場所を示した。(第1号) ・仲間とともに遊んだり学んだりする学校生活への誘いを単元展開で表せるよう工夫した。(第3号) 	4～13 頁 5 頁, 12～13 頁, 16～17 頁 4～25 頁
2 はると なかよし	<ul style="list-style-type: none"> ・四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子などに、多様な気づきや発見のよるこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう表した。(第1・4号) 	26～33 頁
3 たんごの せっく	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化とかかわりをもつ地域の行事にこめられた人々の願いや思いを、家庭生活のなかから気付けるよう配慮した。(第5号) 	34～35 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
4 わたしの あさがお	<ul style="list-style-type: none"> 一粒の種との出会いから「わたしとあさがお」の関係を築いていく過程での気持ちの交流を大事にするため、その中で出会う思いがけなさを大切に学習カードや吹き出しとして表した。(第1・4号) 	36～43 頁
5 いきものと いっしょ①	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し長期的にかかわるなかで、対象に寄り添い、生活をともにし、くらしをつくっていく学びを大事にすることで、生命を尊び、大切にする心が養われると考え、飼育学習を位置付けた。(第1・4号) 生物に触る前後で衛生面の注意喚起も行った。(第1号) 	44～51 頁 49 頁
6 たなばた	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化とかかわりをもつ地域の行事にこめられた人々の願いや思いをお年寄りから学び、それをもとに自分たちの祭りを計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) 	52～55 頁
7 まぶしい なつ	<ul style="list-style-type: none"> 四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう表した。(第1・4号) 	56～67 頁
8 ひとつぶの たねから	<ul style="list-style-type: none"> 一粒の種から生まれたものを命として残したい、来年の一年生にも引き継ぎたいという活動を通して「わたしとあさがお」の関係を振り返ることができるような構成とした。(第1・4号) 	68～73 頁
9 いきものと いっしょ②	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し長期的にかかわるなかで、対象に寄り添い、生活をともにし、くらしをつくっていく学びを大事にすることで、生命を尊び、大切にする心が養われると考え、飼育学習を位置付けた。(第1・4号) 	74～79 頁
10 おつきみ	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化とかかわりをもつ地域の行事にこめられた人々の願いや思いを調べ活動を通して学び、それをもとに自分たちの祭りを計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) 	80～83 頁
11 あきが いっぱい	<ul style="list-style-type: none"> 四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう表した。(第1・4号) 	84～97 頁
12 わたしと かぞく	<ul style="list-style-type: none"> 家庭のなかでの役割や家族が互いに支え合っていることに気付けるよう、また学校でそれを話題にして気付きを深めていけるよう、学校での話し合いや気付きを家庭の場で確かめたり、自ら取り組んだりすることで、家族と学校とのかかわりも示そうとした。(第3号) 	98～101 頁
13 ふゆも きらきら	<ul style="list-style-type: none"> 四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう表した。(第1・4号) 	102～113 頁
14 せつぶん	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化とかかわりをもつ地域の行事にこめられた人々の願いを学び、それをもとに自分たちの祭りを計画して実現していくことを大事に表した。(第5号) 	114～116 頁
15 てづくり おもちゃ	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心を刺激し、興味関心から思い思いのおもちゃづくりを試行錯誤し、不思議さやおもしろさを実感できるよう構成した。(第2号) 	117～119 頁
16 ひなまつり	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化とかかわりをもつ地域の行事にこめられた人々の願いや思いに触れ、地域に伝わる伝統文化を理解していくことを願って単元構成した。(第5号) 	120～121 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
17 もうすぐ 二ねんせい	・一年間の振り返りをする活動を通して、学習上の自立、生活上の自立、精神的自立への基礎が養えるよう配慮した。(第1号)	122～128頁

下巻

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1 二年目の 春	・四季を通して繰り返し足を運び、自然の変化や地域のくらし、人々の様子など多様な気付きや発見のよろこびを感じてきた子どもたちが再びの春で自らの成長にも気付き、自分自身への愛着が深められるよう表した。(第1・4号)	4～13頁
2 わたしたちが すむ 町	・地域で働いたり生活したりする人々とのかかわりを通して自分たちとのかかわりを理解し、自分が住む町に親しみや愛着がもてるようにした。(第2号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して適切な人とのかかわり方、態度が身に付くよう配慮した。(第3号)	14～24頁 18～24頁
3 いきものと いっしょ③	・育ててきた生きものが「お母さんになる」という生命誕生に立ち会い、生命を尊び、大切にすることを養うとともに、子ども自らの成長をも顧みられるよう構成した。(第1・4号)	28～31頁
4 いっぱい みのって	・生きもの单元との関連で立ち上がり、さらに身近で教材生の高い大豆を対象として「わたしとあさがお」の関係から「わたしたちの～」となるよう継続性のある单元として、設定した。(第1・4号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して人との適切なかかわり方、態度が身に付くよう配慮した。(第3号)	32～45頁 32頁, 35頁, 43頁
5 かがやく 夏	・夏ならではの川遊びを楽しみながら、そこに棲む生きものに目を向け、育つ場所や環境に関心がもてるよう配慮した。(第4号)	46～51頁
6 すすめ すいすい号	・これまで生活をともにしてきた友と遊びを創り出していく楽しさや水の上に浮かべた浮遊感覚とよろこびを表した。また、知的興味を満たすだけでなく学校、地域、級友との心の交流を通して人との適切なかかわり方、身の回りの環境を大切にする態度が身に付くよう配慮した。(第1・2号)	52～57頁
7 いっぱい みのったね	・生育条件を調べて世話を続け、実りの満足感や成就感を味わえる構成にし、さんぼみち周辺で働いている方々への尊敬の念も感じられるよう配慮した。(第1・4号) ・身近な人々、社会とのかかわり、心の交流を通して適切な人とのかかわり方、態度が身に付くよう配慮した。(第3号)	58～65頁 62～65頁
8 みんなで 行こう	・生活を広げ豊かにしてくれる地域や公共施設へ学習を自らの力で展開していくことを大切にし、そのための調べ学習の方法も大事に表した。(第2・3号) ・地域に出かけ、地域の人とかかわるなかで伝わることの楽しさや心の交流ができたよろこびを味わい、相互の交流活動のなかで働く人や仕事への夢・憧れを抱くことを願い構成した。(第2号)	66～68頁 69～73頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
9 冬と お正月	・遊びを中心にした『たのしい おしょうがつ』『おしょうがつの あそび』（1年）に対し、家庭のなかでの家族の一員として、また、地域の一員として迎えるお正月の視点から構成した。（第3・5号）	74～81 頁
10 はしれ はしれ	・知的好奇心を刺激し、興味関心から思い思いのおもちやづくりを試行錯誤し、不思議さやおもしろさを実感できるよう構成した。（第2号）	82～87 頁
11 いきものと いっしょ④	・小さいときから育ててきた生きものと長期的にかかわるなかで、対象に寄り添い、生活をともにし、くらしをつくってきた学びを振り返り、生命の尊さ、ともに生きるよろこびが感じられるよう表した。（第1・4号）	88～91 頁
12 大きく なった ぼく わたし	・生きものの生命の誕生や作物の収穫を経験してきた子どもたちが自らの誕生を振り返り、かかわり支えてきてくれた人々についての調べ活動などを通して、慈しみのうちに生きる自分を自覚できるように配慮した。（第1号）	92～99 頁
13 すごいね ぼく わたし	・四季を通じて通い続けた場所、動植物や人々、栽培などのかかわりを子どもの言葉で表し、二年間の自分自身への成長に気付いていけるよう配慮した。さらに3年生への意欲に満ちた表情を写真で表した。（第1号）	100～104 頁

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 豊かな生活のドラマをつくりだす単元展開

- ・単元展開をリードする主人公として「さとこ」「まこと」を登場させ、担任や支援員また、外国籍や障がいをもつ級友など2人を取り巻く生活を描くことにより、教科書に物語性をもたせた。
- ・子どもが求め、展開するなかで、生活のドラマが生まれ、子どもの心が触発され、学びや育ちの機縁となることを大事に、活動のよろこびや感動が十分味わえるような単元を示すとともに学年の初めに「はじめまして せいかつか」「ことしも 生活科」を位置付け、願いの実現を大切に立ち上がる教科であることを示した。

(2) 活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開

- ・活動が真に子どものものとして展開するために、活動を指示したり、単に例示したりするのではなく、吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで表し、「子どもの願いから立ち上がる端緒」を示した。
- ・活動の節々における「感動体験」、試す・確かめるなどの「探究活動」、自らの体験を見返し味わう・たどるなどの「表現活動」を多様に示し、より深い学びや活動につながるよう、友達同士の学び合いや情報交換の場も位置付けた。

(3) 生活科ならではの学習の視点を明確にした内容構成

- ・学校生活のはじまりが生活科学習のはじまりと考え、「はじめまして せいかつか」「ことしも 生活科」を設け、「家庭に始まり家庭に帰る」を大切に家庭・地域とともに育てる実践を目指した。
- ・1年生の最初に「うれしいな いちねんせい」最後に「もう すぐ 二ねんせい」、2年生の最初に「二年目の 春」そして、最後に「すごいね ぼく わたし」を位置付け、今ある自分から生活を豊かに広げていく楽しさや期待感を感じられるようにした。

(4) 地域に生まれ、地域に育つ子どもが、四季を通してその場所にかかわることを重視した内容構成

- ・多様な気付きや発見のよろこびを感じ、ふるさとへの愛着が深められるよう、いつものあそび場やさんぼみち（1年では、「はる・なつ・あき・ふゆ」、2年では「あそこに 行けば」）、生き物の居場所などの単元を設け、四季を通して繰り返し足を運び、直接体験をする内容構成にした。

- (5) 動・植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを様々な体験できるような場面の表し方を工夫
- 動物や植物との継続的なかわりを大切に、息の長い活動を位置付け、家庭・地域や専門機関との連携も大事に課題を乗り越えて行く姿を表した。
 - 動・植物を育てていく過程では、情意的な体験を様々な積み重ねて、対象への一体感を感じ、相手のありようから自分のありようを新たにしたり、知的な認識を深めたりする場面を大切に考えた。なお、動物飼育にかかわっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物を提示するとともに、飼育活動のまとめとして、その生き物にかかわる学習の収束や「別れ」も大切に考えた活動を示すとともに感動表現も取り入れた。
- (6) 自分の生活・成長が自覚できるよう、振り返りの場面を大事な学習の視点に
- 各単元での振り返りの場面を大事に、子どもが自分や友達の生活・成長・環境とのかかわり方ができるようにした。また、下巻では、自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や周りの人々とのかわりや学校での二年間を通し、互いの成長を「すごいね」と振り返る場面を大切にし、その温かなまなざしを感じながら自分の成長を実感できるように考えた。
- (7) 実践に基づいた子どもの姿や発せられる言葉の提示
- 子どもが思いをこめてひたすら活動に打ち込む姿、比べ・試す手応えのよさによるこび、気付きの質を深める姿、自他とのかかわりについて思考したり、追究したり、成就感を得たりする姿などをさし絵や写真で表し、活動への触発となるように配慮した。
 - 子どもの言葉は、自ら取り込んだ体験の質と抜きがたい関係を持ち、個性的で温かく、核心を突いた意識や感情、主張の表れである。そこで、これらを厳選して、緊張感ある「吹き出し」や「対話」「詩」「作文」などで示し、体験や活動の質が高まるようにした。
- (8) 具体的な活動や体験と一体となった表現活動の重視
- 活動や学びのなかで生まれてくる友達同士の気付きや発見を伝え合い、より深い学びや活動につながることを大事に、伝え合う活動をさし絵や写真、作文等のなかに表した。
 - 子どもたちが日々書き留める観察カードや日記、手紙などを要所に示し、日ごろから記録に残して振り返ったり、相手に思いを伝えたりすることの意義を表すように配慮した。
 - 表現は活動や体験を振り返り、その意味を意識化したり、位置付けたりする上で重要となる。そのために、絵や作文、詩、歌、造形表現、身体表現、劇などによる多様な表現活動を取り入れるように配慮した。
- (9) 合科・関連、総合的な学習の時間との関連
- 小1プロブレムや入学期の子どもの発達の特徴を考慮し、遊びや活動を重視して、総合的に展開できるようにした。
 - 聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べと地図への表しなどのように、他教科との関連や3年生以降の教科との関連、また情報機器への導入も含め、総合的な学習の時間との関連なども配慮して単元の編修に努めた。
- (10) 子どもたちに親しまれ、活動意欲を高める、個に応じた学びへの配慮
- 日常生活や活動のなかでの安全の注意喚起には特別なキャラクターを設定し、赤枠で囲むなどして特に意を用いた。
 - 家庭環境の違いや障がいのある児童、また外国籍の児童など多様な人々と触れ合うことは日々のくらしそのものと捉えて、全単元にわたってさし絵で個々の子どもの願いや実態に応じて選択、あるいは発展する学習の展開が図れるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-118	小学校	生活	生活	第1学年, 2学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
26信教	生活109 生活110	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかせ		

1. 編修上, 特に意を用いた点や特色

子どもたちが手放せないお気に入りの絵本のような教科書に

(1) 地域に生まれ, 地域に育つ子どもが, 四季を通してその場所にかかわることを重視した内容構成

- ・多様な気付きや発見のよろこびを感じ, ふるさとへの愛着が深められるよう, いつもの遊び場やさんぽみちなどの単元を設け, 四季を通して繰り返し足を運び, 直接体験をする内容構成にした。
- ・「たんごのせつく」「たなばた」「おつきみ」「お正月」「せつぶん」「ひなまつり」など季節の変化とかかわりのある地域の行事にこめられた人々の願いや思いを調べる活動も大事にし, 人々とかわりながららしをつくっていきけるように構成した。
- ・「公民館」や「図書館」などの公共施設も地域に育つ子どもが自然に興味関心をもって単元展開となるよう単元間のつながりにも配慮した。

(2) 豊かな生活のドラマをつくりだす単元の設定

- ・単元展開をリードする主人公として「さとこ」「まこと」を登場させ, その家族やクラスメート・担任の姿も描くことにより, 教科書に物語性をもたせ, 単元名・小単元名ともに子どもの言葉で表すようにした。
- ・子どもが求め, 展開するなかで, 生活のドラマが生まれ, 子どもの心が触発され, 学びや育ちの機縁となることを大事に, 活動のよろこびや感動が十分味わえるような単元を示した。特に内容項目(8)に特化した単元は設けず, らしのなかで自然なかかわりとして幼保・地域・お年寄りなどとの交流を位置付けるよう配慮した。

(3) 活動の端緒や追究過程を大事に考えた単元の展開

- ・活動が真に子どものものとして展開するために, 活動を指示したり, 単に例示したりするのではなく, 吹き出しや表情豊かな写真やさし絵などで, 「子どもの願いから立ち上がる端緒」を示したり, 学びの深まりや広がりにつながる活動への触発性を大切に表したりした。
- ・活動の節々における「感動体験」, 試す・確かめるなどの「探究活動」, 自らの体験を見返し味わう「表現活動」を多様(詩的表現, 学習カード, 歌, 絵, 粘土)に示し, より深い学びや活動につながるよう, 友達同士の学び合いや情報交換の場も位置付けた。また, そうした学習活動を支える教師のありようが具体的にわかるように, 写真やさし絵のなかに「教師の立ち位置」もできるだけ示した。

(4) 生活科ならではの学習の視点を明確にした内容構成

- ・学校生活の始まりが生活科学習の始まりと考え, 「はじめまして せいかつか」「ことしも 生活科」を設けた。また, 「家庭に始まり家庭に帰る」を大切に家庭・地域とともに育てる実践を目指した。
- ・1年生の最初に「うれしいな いちねんせい」, 2年生の最初に「二年目の 春」を位置付け, 今ある自分から生活を豊かに広げていく楽しさを感じられるようにした。

(5) 動・植物との継続的なかわりを通して、命のドラマを体験できるような場面の表し方の工夫

- ・動物や植物との継続的なかわりを大切に、息の長い活動を位置付け、家庭・地域や専門機関との連携も大事に課題を乗り越えて行く姿を表した。
- ・動物飼育にかかわっては、学級や学校の実態、地域の実情に応じて選択肢がもてるよう複数の生き物を提示するとともに、飼育活動のまとめとして、その生き物にかかわる様々な学習の収束や「別れ」も大事に考え、活動を示すとともに感動表現も取り入れた。

(6) 自分の生活・成長が自覚できるような振り返りの場面の設定

- ・各単元での振り返りの場面を大事にし、子どもが自分や友達の生活（成長）・地域とのかかわり方などを通して自分の成長に気付くことができるようにした。
- ・下巻では、自分の幼いころの成長を支えてくれた家族や周りの人々とかかわりや学校での二年間を通して、互いの成長を「すごいね」と振り返る場面を大切に、その温かなまなざしを感じながら自分の成長を実感できるようにした。

(7) 各教科，総合的な学習の時間との関連や情報機器の利用

- ・入学期の子どもの発達特徴を考慮し、遊びや活動を重視して、総合的に展開できるようにした。
- ・聞き取りやインタビューとその方法の立案、地域調べと地図への表しなどのように、他教科との関連や3年生以降の教科との関連、また情報機器（デジタルカメラやタブレットなど）への導入も含め、総合的な学習の時間との関連なども配慮して単元の編修に努めた。
- ・デジタル教科書対応としてURLコード・二次元コードを目次に示し、図鑑的要素を盛り込んだ。

(8) 個に応じた学びへの配慮

- ・家庭環境の違いや障がいのある児童，また，外国籍の児童など多様な人々と触れ合うことは日々のくらしそのものと捉えて，全単元にわたってさし絵で個々の子どもの願いや実態に応じて選択，あるいは発展する学習の展開が図れるようにした。

2. 対照表

上巻

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
(オリエンテーション) はじめまして せいかつか				表2～1頁	1
◎うれしいな いちねんせい ○きょうから いちねんせい ○おはようございます ○あそぼうよ ○さようなら ○きを つけて かえるよ ○あぶなく ないかな ○がっこう たんけん ○ここは どこかな ○なかよしに になりたいな ○おはなし ききたいな ○こうていへ いこう ○みんなで はなそう	(1)	(1)	(4)	4～7頁， 8～13頁， 14～19頁， 20～21頁	8 + 国 算 音 体 図 特
			(4)	22～23頁	
			(8)	24～25頁	

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
◎はると なかよし ○いつもの ばしょ ○はるの さんぼみち ○はるの おくりもの	(2)	(5)	(8)	26～31 頁	6 + 国 図 特
			(6)	32～33 頁	
◎たんごの せっく	(2)	(5)		34～35 頁	4
◎わたしの あさがお ○どんな はなが さくのかな ○めを だしてね ○あっ めが でた ○おおきく なって きたね ○わあ さいた	(2)	(7)		36～43 頁	4
◎いきものと いっしょ① ○かって みたいな ○きょうから いっしょ ○よろこんで くれるかな	(2)	(7)		44～51 頁	6
◎たなばた	(2)	(5)		52～55 頁	3
◎まぶしい なつ ○わあ きもちが いい ○いつもの ばしょ ○なつの さんぼみち ○あめふり ○あめあがり ○なつの あんぜん ○あめあがり ○なつやすみ ○たのしかったよ	(2)	(5)	(8)	56～63 頁	8
			(1), (6), (8)	64～67 頁	
◎ひとつぶの たねから ○きれいだな ○のこしたいな	(2)	(7)	(6)	68～73 頁	6
◎いきものと いっしょ② ○きょうも げんきかな ○やりたい こと いっぱい ○さあ おはいいり ○さむく なって きたね	(2)	(7)	(8)	74～79 頁	8
◎おつきみ ○おつきみ したいな ○おつきみ しよう ○きょうの つきは ○おつきみかい	(2)	(5)		80～83 頁	2
◎あきが いっぱい ○いつもの ばしょ ○あきの さんぼみち ○あきの おくりもの ○あきと あそぼう ○いっしょに あそぼう	(2)	(5)	(8)	84～93 頁	10
			(6), (8)	94～95 頁	
				96～97 頁	
◎わたしと かぞく ○おしえて いえの こと ○わたしに できる こと ○できるように なったよ ○こうして みようかな	(3)	(2)		98～101 頁	10

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
◎ふゆも きらきら ○いつもの ばしょ ○ふゆの さんぽみち ○ふゆも げんき ○とうじの ひ ○たのしい おしょうがつ ○おしょうがつの あそび ○はるの ななくさ ○おおゆきの ひに ○ふゆの あんぜん	(2)	(5)	(8)	102～109 頁	7
			(1), (6)	110～113 頁	
◎せつぶん	(2)	(5)		114～116 頁	2
◎てづくり おもちや	(2)	(6)		117～119 頁	5
◎ひなまつり	(2)	(5)		120～121 頁	3
◎もう すぐ 二ねんせい ○だいじな おもいで ○こんな ことが あったよ ○ありがとう 一ねんかん	(3)	(9)	(8)	122～128 頁	9
				1 年 総授業時数	102

下巻

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
(オリエンテーション) ことしも 生活科				表 2～1 頁	1
◎二年目の 春 ○新しい 教室 ○ことしの ねがい ○いつもの ばしょへ ○あそこに 行けば ○春の あじ ○たんぼぼの ふしぎ	(1), (2), (3)	(5)		4～7 頁	8
			(6), (7)	8～13 頁	
◎わたしたちが すむ 町 ○みつけた ○おみせやさん ○こうみんかん ○ふるい たてもの ○ちいきの かたりべ ○つたえあおう ○人に やさしい 町 ○みつけて みよう	(1), (2)	(3)	(4), (8)	14～27 頁	12
◎いきものと いっしょ③ ○おかあさんに なったんだね ○きょうも あいたいよ	(2)	(7)	(8)	28～31 頁	4

図書の構成・内容 ◎大単元 ○中単元	学習指導要領の内容			該当箇所	配当 時数
	学年の目標	生活科の内容			
		主たる内容	従たる内容		
◎いっぱい みのって ○だいを そでてたいな ○はたけを かして ください ○はたけづくり ○まめは 生きて いる ○たねまき ○あつ めが 出る ○あれっ ○大きく なった だいを ○だいの おせわ ○かわいい 花だね ○まめの 赤ちゃん	(2)	(7)	(8)	32～45 頁	12
◎かがやく 夏 ○いきものの いる 川 ○耳を すませば	(2)	(5)	(7)	46～49 頁	4
			(3)	50～51 頁	
◎すすめ すいすい号 ○ういた ういた ○ふねを つくりたいな ○どんな ふねに しようかな ○さあ のろう	(2)	(6)	(8)	52～57 頁	8
◎いっぱい みのったね ○だいの しゅうかく ○何が つくれそうかな ○生まれかわる だいを ○しゅうかくいわい	(2)	(7)		58～63 頁	10
			(8)	64～65 頁	
◎みんなで 行こう ○どうやったら 行けるかな ○しゅっぱつだ	(1)	(4)	(3)	66～73 頁	16
◎冬と お正月 ○冬じたく ○年の くれ ○お年とりの じゅんぴ ○元日の 朝 ○かきぞめ ○小正月	(2)	(5)	(2)	74～77 頁	8
			(3)	78～81 頁	
◎はしれ はしれ	(2)	(6)		82～87 頁	6
◎いきものと いっしょ④ ○いつも いっしょだったね	(2), (3)	(7)		88～91 頁	4
◎大きく なった ぼく わたし ○わたしの たんじょう ○小さい ころの わたし ○大きく なって きた わたし ○ありがとう	(3)	(9)	(8)	92～99 頁	8
◎すごいね ぼく わたし ○楽しみだね 三年生	(3)	(9)		100～104 頁	4
				2年 総授業時数	105